

頌栄 No. 124

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



聖霊の神殿である私たち

牧師 清弘 剛生

あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。(1コリント3・16、17)

信仰を求め始めた頃、私たちの心には必ずといってよいほど、こんな問いがあったのではないでしょうか。「わたしにとって神は必要か。信仰は必要か」。そしてその延長上に、「教会に行くことは、わたしにとって有益か」という問いもあったことでしょうか。しかし、洗礼を受けて何年経っても、この考え方が変わらな

いとすれば、それは深刻な問題です。教会が自分のために存在しているかのように見えるのとすれば、パウロは私たちに問いかけるでしょう。「あなたがたは知らないのですか」と。

私たちは知らなくてはなりません。私たち「教会」は神の神殿なのです。神殿は人によって建てられるとしても、人間のものではなく、神のものであり、神のために存在しているのです。「聖なるもの」とは、神のものであるということに他なりません。ゆえに、あたかも私たちのためのものであるかのように扱ってはならないのです。「神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅

ぼされるでしょう」——この言葉を、私たちは畏れをもって受けとめなくてはなりません。私たちは、自分たちが神の神殿とされているという事実に対する畏れを、決して失ってはならないのです。

しかし、もう一方において、そこにこそ真の喜びもあるのです。キリストによって贖われ、罪を赦された私たちが形づくる教会が、また私たち一人一人のこの体が、神の神殿とされ、神の霊が宿ってくださる。まさに驚くべき恵みではありませんか。

今年の年度主題は「聖霊の神殿である私たち」です。聖霊なる神が私たちの内に住んでおられる——この尊い事実を胸に、共に歩んでまいりましょう。

(4月「年度主題を覚えてささげる礼拝」より)

フィリピン宣教報告

ベルトラン小川文子

頌栄教会の愛する皆様、いつもお祈りありがとうございます。先日はフィリピンから久しぶりに一時帰国し、共に礼拝をお捧げすることができました。変わらない皆様に迎えていただき、懐かしさで胸がいっぱいになりました。

午後のフィリピン宣教報告会にも多くの方が参加してくださり、現地の様子を共有することができたのは大きな喜びでした。

ビサヤ語の賛美を皆で歌って、飛び跳ねて外で賛美している様子や子供伝道の様子を画像で見ました。『家の教会運動』は、牧師主導でなく皆が教会を色々な場で作っていく方法で、ボホールに500教会を目指しています。といっても今はまだ5教会で、その半数は空き地や道端での路傍礼拝です。さすが南国。路上子供会も週に3回ありますが、最近では子供たちが子供たちをリードして勝手にやってくれています。

質問:「何語を話しているんですか?」

「公用語はタガログ語ですが、普段は地元のビサヤ語と英語を混ぜて使います。その環境なのでうちの子はあまり日本語ができません」

「子供たちが神様に対して素直に育っているのはなぜですか」

「教会で愛されて育ったのが大きいと思います」

「献金は足りているのですか」

「日本から月15万円送っていただいております、オンラインで通訳の仕事もしているので大丈夫です」

「ゴキブリは大きいですか」

「…普通です」

「気候は?」

「季節は二つあって、『暑い』と『とても暑い』です」。

終始笑いの絶えない報告会でした。

以前ボホールに来てくださった方々も思い出を分かちあってくださいたりして、ボホールがさらに身近になったのではないかと思います。また皆様、ぜひいらしてください!

皆様の祈りを通して神様がフィリピンの地に偉大な御業を起こしてくださっているのを、心より感謝して。



(5)

ベルトラン小川文子宣教師報告会

M・N

3月22日フィリピンから一時帰国をされていたベルトラン小川文子宣教師による特別礼拝があり、その後、地下ホールにて報告会がありました。その時の感想をお伝えいたします。

私は、何十年も前ですが、文子さんが頌栄教会の青年会の頃の様子を覚えていますが、いつも穏やかな笑顔で、回りを温かく包んでくださっているようでした。

その変わらない雰囲気を今回も感じられたことをとても嬉しく思いました。

宣教師になられて、フィリピンのボホール島に導かれ20年近く伝道をされてこられたことは、本当に信じられないようで、改めて心から感謝です。住んでおられる所は、それはそれは自然が美しい島のようにですが、ガスや水もない中、日々様々な困難や災害を乗り越えて伝道をされてきました。

現実にはなかなか厳しい環境のよう

ですが、その中で4人のお子さんを育てられているのです。

子供さん達を育てる大変さを尋ねると、文子さんは、「東京ではとても育てられないです、あちらでは教会の皆さんと一緒に育ててくれるから、」と、笑いながら答えてくれました。

そのおおらかさ、また、ボホール島の家の教会の皆さんとの自然体の信頼関係をうかがい知って羨ましい気持ちになりました。豊かさとは何か？を考えさせられるひと時でした。

ご家族と共に各地で家庭集会を続けられ、その中最近7か所の集会が「家の教会」になったそうです。そして、目標は、「家の教会」を50ヶ所に広げることだそうです。

また島に戻られ、宣教師のご主人と共に伝道活動を続けていかれるベルトラン小川文子宣教師の上に、またご家族、「家の教会」の方々の上に神様の豊かなお恵みと祝福がありますように、これからも応援し祈り続けてまいります。

とても良い会でした。



イースターおめでどうございませす

H・K

今年は四月五日にイースターを迎えました。初めていらした方々も含め、多くの方々と共に礼拝をお捧げいたしました。清弘牧師からは「絶望を押し流す圧倒的な神の恵み」という説教題で神さまのみ言葉を聞くことができました。

礼拝後は階下ホールにて祝会が開催され、こちらにも多くの方々が参加されて、楽しいひと時を過ごしました。祝会の中では、教会学校の子どもたちの進級をお祝いすることができ、一つ上の学年に進む子どもたちの成長を神さまに感謝いたしました。また、教会学校の先生方の普段のお働きに感謝いたします。一年はあつという間です。私たちも日々あることを当たり前と思わず、いつも神さまが備え、見守ってくださいていることを思い、これからも祈り、歩んでいきたいと、改めて心に留めました。

子どもたちが歌い、大人たちも歌い、

さらにみんなで輪唱。イエスさまのご復活をこんなにも楽しく、賑やかにお祝いできた瞬間でした。

この会を開催するにあたり、美味しいスープやお食事を準備してくださった、ワーキンググループの皆さま、司会をしてくださった、Oさん・Iさん、他にもお支えくださった多くの方々、このような温かい会を本当にありがとうございました。

そして、すべてを神さまに感謝いたします。



4月の教会学校

児童部会



いつも教会学校のためにお祈りくださり、ありがとうございます。

今年は、イースターとともに新年度が始まりました。進級進学した子どもたちと、教師も心新たにスタートしています。その中で、新しい試みを2つご紹介します。

ひとつはイースター祝会の中で行った進級祝福式です。幼児クラス、小学生クラス、中高生クラス、それぞれの子どもたちを紹介し、清弘先生に祝福のお祈りしていただきました。そのあと「Celebrate Jesus」を英語で賛美しました。ギターと打楽器の伴奏も交えて、後半は会場のみなさんと一緒に賛美しました。温かい笑顔と拍手に包まれ、感謝のひと時でした。

それから4月19日には、初めて合同分級を行いました。15年前の東日本大震災の話をしました。中学生以下の子どもには、生まれる前の遠い話になりがちですが、今もその悲しみの中にいる人や、数多く

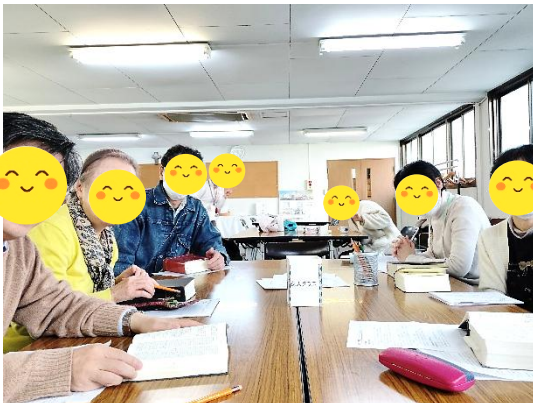
の困難があることに心を向け、とりなしの祈りを心合わせておささげしました。各クラスの子どもの数が少ないことや、子ども同士の交わりを大切にしたいことから、今年は積極的に合同分級を行っていきたいと考えています。

これからも、ともに子どもたちを見守り、信仰の成長をお祈りいただきたく、よろしくお願いします。

成人クラスは、礼拝後にホールで行っています。出エジプト記の学びを5月で終え、6月からはレビ記に入ります。いつからでも、どなたでもご参加ください。



イースター祝会後の子どもたち



成人クラス



4月19日 合同分級



イースター祝会の様子

—今後の予定—

5月24日(日) 聖霊降臨祭

5月31日(日) 三位一体主日

6月14日(日) 花の日・子どもの日

8月2日(日) 平和主日